春江中学校の生徒の皆さんへ

令和５年１１月２１日
第１０号

校長の念い

図　制作者
文芸・書道部
3年文芸部員

犯罪学の考えを用いて、いじめを考え、人権を尊重し合おう！

前号発行日から本日までに、３年生の学力診断テストや１、２年生のハーモニーコンサート、生徒総会などを行いました。今後は、２年生は来年３年生になって春江中の中心となる準備をするという気持ちで、１年生は来年先輩となるという気持ちで、日々をしっかりと過ごしてください。そして、３年生はそれを温かく見守り、次の進路へ向かってください。

ところで、毎年１２月４日から１２月１０日を「人権週間」と定めて、全国各地で人権啓発活動を行っています。いじめや虐待、性被害等のこどもの人権問題、インターネット上の人権侵害、障害のある人や外国人など、多様な人権問題があります。これらの問題の解決には、私たち一人一人が自分のこととして捉え、互いの人権を尊重し合うことの大切さについて、認識を深めることが重要です。そこで、第10回目の「念い」は、「犯罪学の考えを用いて、いじめを考え、人権を尊重し合おう！」です。元・少年院の先生で、人気Vtuberの犯罪学教室のかなえ先生は、参考文献を要約すると、次のように主張しています。

「犯罪学」の知識があれば、犯罪やいじめの被害者にも加害者にもならずにすむことがあると考えています。「犯罪学」とは、犯人の動機を考えることや調査研究・統計などを分析して犯罪を考えること、環境を改善して犯罪予防を果たそうと考えること、犯罪への対応や予防を考えることなど幅広い学問です。犯罪学を学ぶことは、自分自身を守る武器となり、あるいは暴発しそうになる自分自身を思いとどまらせるブレーキになるのです。

いじめが発生する理由を、犯罪学として、脳科学や心の動き、環境の視点で考えてみます。まず、脳科学の視点では、人は異物を排除することで集団の和を守るからだと考えられています。例えば、運動会の全員リレーで、クラス目標を優勝と定めました。「足の遅い人」や「まじめに練習に取り組まない人」がいると、クラスの和を守るため、排除しようとしてからかいや仲間外れなどのいじめが発生するのです。また、心の動きから考えると、クラス目標が阻害されるといじめのスイッチが入り、クラスに迷惑をかけているという正当化する理由が結び付くことでいじめが発生するのです。環境面では、「傍観者」(何も言わない人)や「観衆」(はやし立てる人)が多く、「仲裁者」「通報者」が少ないからです。いじめの抑止のためには、「傍観者」を「仲裁者」や「通報者」に変えることです。そうなれば、いじめに対して「ノー」という空気をクラスで作れます。しかし、生徒間で解決するのは大変難しいので、大人の力が必要なのです。いじめを放置することは、被害者の人生が破壊されるだけでなく、加害者側の反省と更生する機会を奪うことにつながります。

人権週間をきっかけに、犯罪学の考えでいじめを考え、人権について考えてみませんか。

※　参考文献　2022　もしキミが、人を傷つけたなら、傷つけられたなら　犯罪学教室のかなえ先生　フォレスト出版